

井上伝 織姫。偶然から久留米餅創始者になった。

いのうえでん

1788 = 筑後国御井郡久留米通外町で、米穀商{橋口屋}平山源蔵の娘に生まれる。

松平定信引退1793 = 5歳 :

幼時から機織りを好み、

昌平覺始 1797 = 9歳 :

蝦夷地直轄始1799 = 11歳 : この頃、すでに秀れた編模様を織るようになり、家計を助けていた。

伊能測量始 1800 = 12歳 : この頃、*たまたま木綿の白糸を括り、藍汁に浸してから括り糸を解いて織ったところ、白紋ができ、あたかも雪や霞が飛び舞っているような模様が織り出され、"加寿利"と名づける。以後、一層の研究を重ね、

藤栗毛始 1802 = 14歳 : この頃には*精巧なものができるようになり、のちに久留米餅の創始者とされることになる。

多くの子に技術を教えるようになっていたが、

げん 刀報復 1806 = 18歳 :

おし 船狼藉 1807 = 19歳 : やむをえない家の事情で、藩士松田家に女中奉公、暇な時は、主人の許可を得て、機織りを続け、

間宮海峡発見1809 = 21歳 : 城下の原古賀の井上次八と結婚、のち、2男1女を生む。*餅には「筑後久留米原古賀織屋おでん大極上御誂」の商標をつけて売り出し、飛白染・霰織・霜降り織・お伝加寿利などと呼ばれて、広く伝えられた。

次々と改良を重ねられたが、その過程で最も技術的に苦心したのは、白点の部分を多彩な絵模様で織りあげることにはどのような仕掛けをしたらよいかという点で、久留米藩の田中久重・紺屋佐助なども協力し、

浮世床 1813 = 25歳 : 夫が病死したため、3児を抱えて里に帰ると、自活のため、一層、指導に専念し、まだ少年だった田中久重は伝のため、板締めによって自由自在な絵模様の餅糸を量産できる方法を考案。

1815 = 27歳 :

仕事場を3棟も増築し、

水野忠成老中1818 = 30歳 : この頃には_教えを受けに集まる近隣の子は400人におよび、

しん 肺鳴滝塾1824 = 36歳 :

天保大飢饉始1833 = 45歳 :

大塩平八郎乱1837 = 49歳 :

天保改革弾圧1842 = 54歳 :

阿部正弘首座1845 = 57歳 :

尊徳報徳論 1851 = 63歳 :

ペリー来航 1853 = 65歳 :

桜田門外変 1860 = 72歳 :

晩年になってもなお、招かれて出張教授に赴き、

*技術の伝習を受けた者は延べ数千人に達して、

明治維新 1868 = 80歳 :

版籍奉還 1869 = 81歳 : 没した。

「人づくり風土記(福岡)」, 「目でみる日本人物百科」,